埼玉県孤独・孤立対策官民連携シンポジウム__実践報告

高校生のための居場所づくり
～校内カフェの取組～



認定NPO法人さいたまユースサポートネット
就労支援事業　統括責任者　石丸靖子

実践報告

・団体紹介

・「校内居場所カフェ」とは

・実践の経緯
～高校連携事業から校内居場所カフェ開催まで～

・活動状況

・「校内居場所カフェ」の役割／課題







団体紹介

私たちのビジョン・ミッション

▲さいたま市見沼区堀崎町（本部拠点）

団体設立・経緯

六畳一間のアパートから…

2011年、元高校教員の青砥 恭（代表）がボランティアと共に、行き場のない若者たちのコミュニティ「たまり場」を、始めたことからスタートしました。

以来、子ども若者の居場所づくり・学習支援・就労支援へと事業を発展してきました。

この15年間の活動で、直接支援してきた子ども・若者は 1万人 を超えました。



▲自治会の方と夏祭りにて



▲たまり場の活動（彩の国すこやかプラザにて）



▲就労支援の活動（職場見学）

私たちの目指す社会と取り組み

◆ビジョン（理想の社会）

地域との協働で一人の子どもや若者も取り残さない
地域づくり（ローカル･コモンズ）をめざします

◆ミッション（取り組み）

さいたま市（その周辺の地域）を拠点に、子どもや若者を貧困と孤立から守るために
４つの支援（仲間づくり、学び、仕事、地域づくり）を実践します。



①居場所支援



②学習支援



③就労支援



④地域づくり

学校を離れた後、相談先を失い孤立する若者たち

就労支援事業の中で・・・

高校等を中退もしくは卒業した後、どこに、どう相談したらよいかわからず、
20代・30代まで数年間のひきこもりを経て相談に来る。

在学中から、相談できる「地域の人」や
頼れる「社会資源」を知っておくことが必要！

「相談」という形では出てこない生徒の声

「支援が必要な生徒」ほど、自ら相談・支援につながりづらい。

定時制高校等の生徒の話を聴く活動で、「特に相談は無い」という生徒に、よくよく話を聴くと、

「家庭の深刻な問題」「友人トラブル」「進路の悩み」「経済的困難」等さまざまな課題が浮き彫りとなった。

「しんどい生活」も生徒にとっては「日常」。

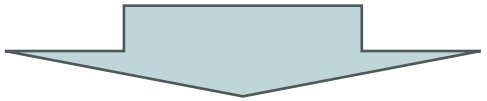
家庭と学校を往復する生活の中で、これまであたりまえにしてきたことを、生徒自身が「課題」とは認識できずにいることも多い。そのため、教員や相談室にも届かない生徒の抱える問題もある。

「気軽に話をする場」を
「学校内」につくることが重要！

高校生の「見えない孤立」

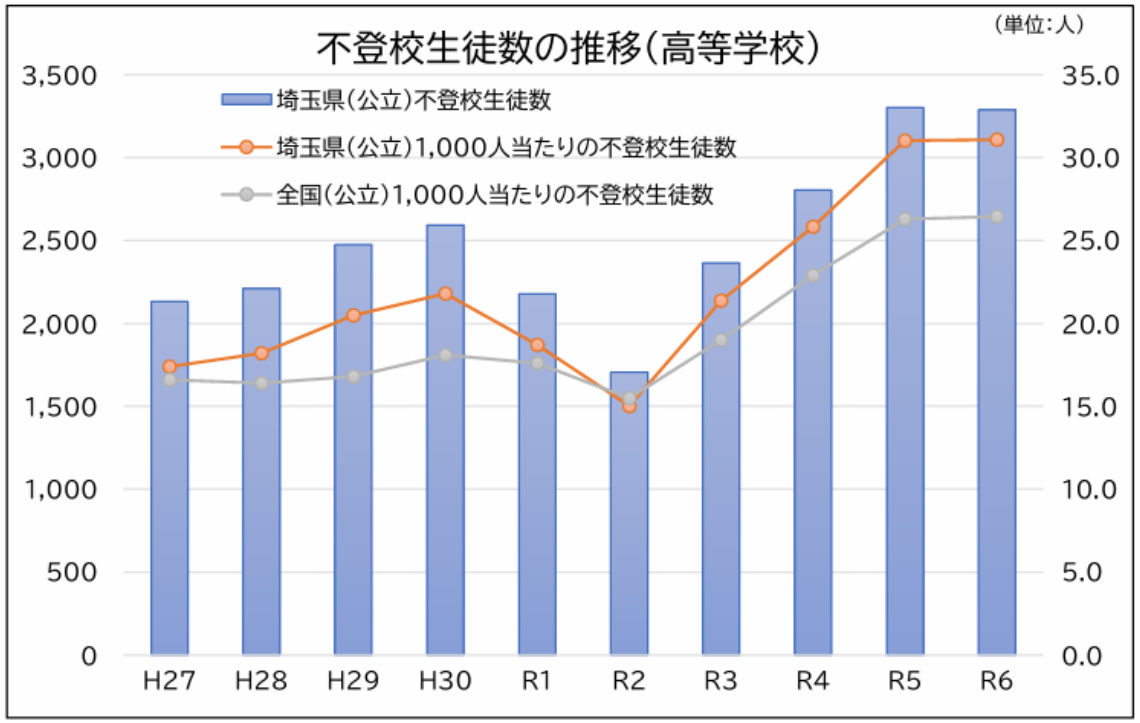
◆高校生は、小中学校の学区から離れて遠方の学校に通う他、
周囲の友人・環境も変わり、地域の大人の目も届きにくくなる。

◆一見、学校には問題なく通うことができている。

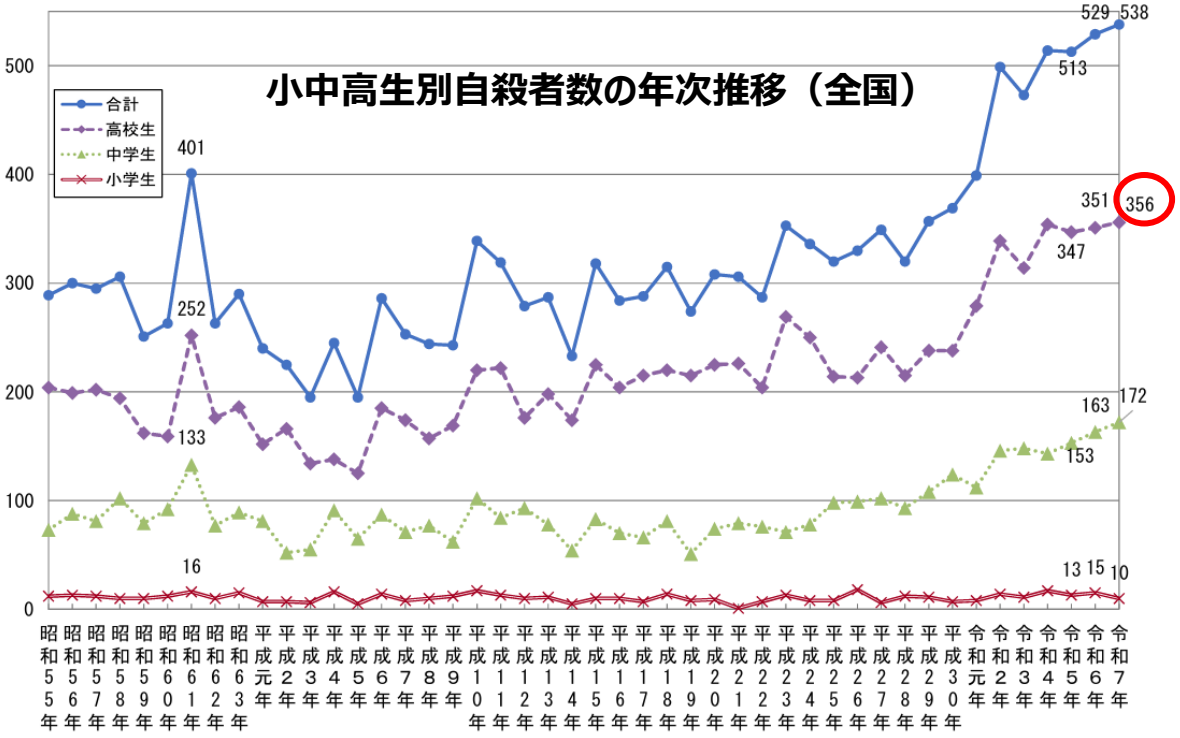


周囲も、その子の抱える悩みや課題に気づくことができない。
（家庭の問題、友人関係、学校生活、経済的な困難、アルバイト、進路、
就職、生きづらさ　など、）

高校生の増える不登校・自殺者数



(令和６年度 埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果)



「令和7年中における自殺の状況」（厚生労働省 自殺対策推進室）

埼玉県内公立高校の不登校生徒数は年々増加傾向

高校生の不登校生徒数 3,289人

高校生の中途退学者数 1,170人
※中途退学の事由は、「**学校生活・学業不適応**」が757人で最も多い。

児童生徒の自殺者数は全国で過去最高

令和7年度 小中高校生の自殺は、過去最高の538人。うち、356人が高校生。

要因としては、「**学校問題**（学業不振・進路の悩み等）、「健康問題（うつ・精神疾患等）」が多くを占める。

県立岩槻商業高校

辻本校長先生の思い

「安心して自分のことを話せる環境」が大切

・教師や家族では、**話しづらい悩みや本音**もあるのではないか・・・

・**将来の自立**を見据え、**普段接することのない大人**にも、自分の考えや思いを伝えられるようになってほしい。

指導・教育ではないかかわりの必要性

・（フラットなかかわりの中で）自分の素直な思いを受け止めてもらい、**否定されることなく話を聴いてもらえたとき**、生徒は「自分は大切にされている」という**安心感**を得ることができる。



安心安全

「評価」や「指導」から離れ、ホッとできる場所

多様な価値観

在学中から親や先生以外の「信頼できる大人」と出会う場所

繰り返される対話

課題早期発見

「相談」につながらない生徒の話を聴く場所

異学年交流

クラスや学年を超えて気軽に交流できるクラス内孤立予防

学校内に気軽に話ができる開かれた居場所を！

校内居場所カフェ

「校内居場所カフェ」とは





教室でもなく、保健室でもなく、相談室でもなく、家庭でもない…

やるべきことや、目的がなくても、ふらっと立ち寄ることができて、

ホッとできる「学校内のみんなの居場所」

ボードゲーム
で仲良くなる

ジュースやお菓子
でホッとする

たわいもない
おしゃべり



校内居場所「いわっこカフェ」ができるまで



2025年 12 月

岩槻商業高校内で「校内居場所」に関する検討が始まる。⇒その後、当団体へご相談。

2026年 2 月

学校が、令和8年度**「埼玉県地域等と連携した中途退学防止事業」**に申請。

さいたまユースサポートネットは、2017年～2020年埼玉県**「地域の多様な人材との連携による高校生自立支援事業」**を受託。県内高校11校との連携があった。

2026 年 4 月

・さいたまユースサポートネットと校内居場所設置に向けた打合せ。
・保護者等への趣旨説明

2026年 6 月

・第1回校内居場所開催！
その後、月2回ペースで開催中。
・参加生徒に、校内居場所カフェの愛称を募集。

初回は、30人程度参加！

2026 年 9 月

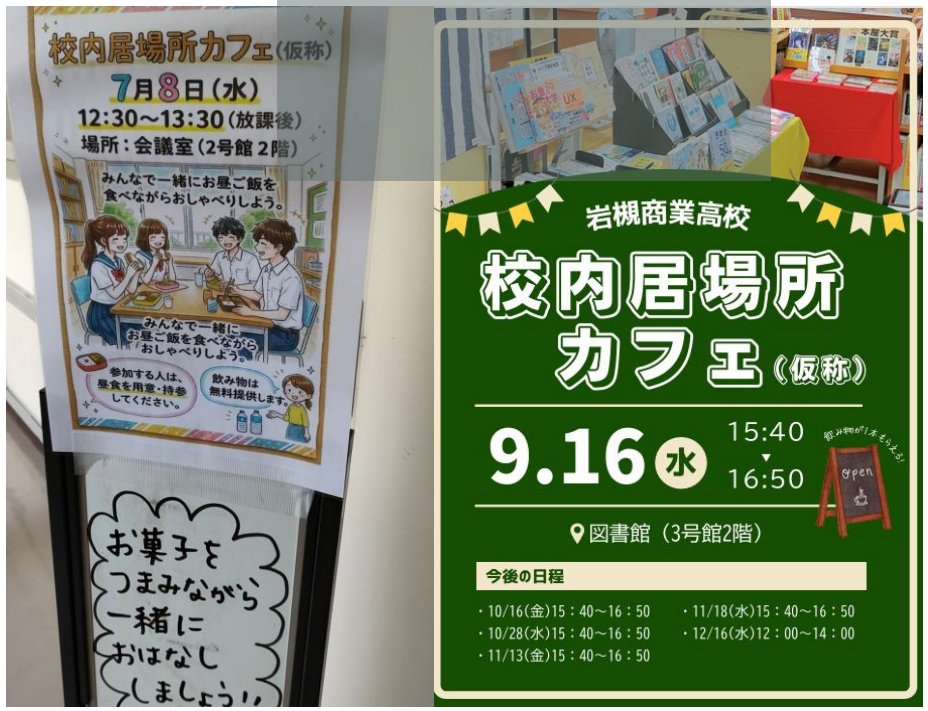
参加生徒による投票の結果、**「いわっこカフェ」**にカフェ名が決定！

夏休み

その後も一部高校・教員との連携が継続・・・

・2024年～ **県立大宮科学技術高校**と「校内居場所」打合せ検討中。

・2024年 **県立ふじみ野高校**の「見晴らしカフェ」立ち上げ時に地元のボランティア（任意団体）と連携。





活動概要

【開催日】　毎月２回程度（水曜日・金曜日）

【開催時間】　15：40～16：50（放課後）

【開催場所】　埼玉県立岩槻商業高校
２階　図書室（他 空き教室等）

【利用対象】　岩槻商業高校 全生徒

【運営団体】　認定NPO法人さいたまユースサポートネット
（当団体スタッフ・地域ボランティア）

【内容】　おしゃべり、ボードゲーム、バーチャルユースセンター（バーチャル居場所）体験など
その他、読書など基本的に自由。
※無料で飲み物（ペットボトル）を提供。
（空き教室利用時は、お菓子も提供。）

初回校内居場所には30人の生徒が参加



▲図書館入り口他、数日前から校内にチラシを掲示して生徒に周知。



▲初回は、生徒の興味・関心事を知るためのアンケートを実施。一緒におしゃべりするきっかけに…



▲原則、毎回 ２階「図書室」で開催。
部活に行く前にホッと一息ついたり、帰宅前にちょっと立ち寄ったり、地域の大人や、異学年との交流の場。

図書室が利用できないときは、空き教室で・・・



▲まずは、いっぱい遊んで生徒と仲良くなる。
「気軽に話しやすい関係性」を築いていく。



▲友達と参加するも良し、一人で参加するも良し！

「バーチャルユースセンター」の体験会も実施



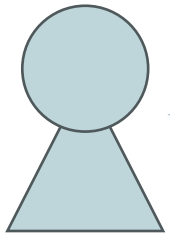
▲外に出づらくなった時でも、チャットで人とつながれる「バーチャルユースセンター（※2）」も紹介するなど、**孤立を予防する社会資源**を知ってもらえるよう、校内で体験できるようにしている。

（※2）埼玉県の「バーチャル埼玉」内にあるこども・若者の居場所。当団体が受託運営（2024年～現在）。



生徒との会話のひとコマ・・・

些細なことでも、生徒たちはいろいろ悩み、つまずき、諦めてしまうことも・・・
私たちは、ただただ、生徒の話をじっくりよく聴きます。意欲が出てきたら、それを応援し、力になります。

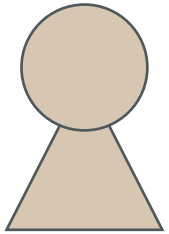


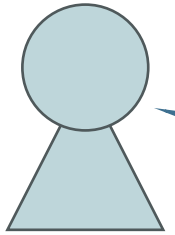
アルバイトのこと

人間関係がなかなかうまくいかず、辞めてしまった。

就活中のホッとできる場所

面接練習ですごく疲れた。でも居場所カフェは絶対に参加したいから、急いで来た！



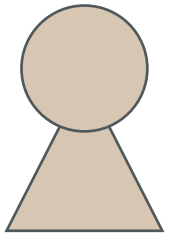


部活のこと

今の部活を続けることが難しい。他に入りたい部活があるが・・・

生徒主体の活動

この場所を使って、みんなとハンドメイド作品づくりをしてみたい。



＜他校事例紹介＞

学校ごとに抱えるそれぞれの課題や状況、特色に応じた校内居場所づくりを…

Unique styles



埼玉県内他「校内居場所カフェ」状況

県立ふじみ野高校「見晴らしカフェ」（2024年度～現在）

※初年度、当団体が高校から相談を受け、
立ち上げにかかわり、その後地域の任意団体が
高校と連携しながら運営中。

初年度は、見晴らしの良い5階図書室を利用して開催。子ども食堂や居場所・学習支援教室を運営する地域のボランティアが集まり、結成された任意団体「大福（だいふく）」が運営。

放課後の時間を利用し、お菓子や飲み物を提供し、ゲームをしたり、おしゃべりをしたり、生徒がほっとできる居場所となっている。



▲ボランティアによる
茶道の文化体験



▲折り紙などちょっとした手作業を
しながらのおしゃべり





▲今年度から、各階の空き教室を活用しながら、さなざまな学年の生徒が
利用しやすい「移動型カフェ」を展開。

「校内居場所カフェ」の4つの役割

１．「指導」や「評価」から解放された**安心安全の場**

－生徒が「ありのままを承認」され、「自分らしさ」を取り戻すことができる。

２．さまざまな大人と出会い、**多様な価値観に触れる場**

－先生や親ではない様々な大人と出会い、校内の視野に留まらず「学校の先の将来」をイメージすることができる。
－在学中から、大人（社会人）との自然な関係性が生みだされる。

３．学校の中に**「相談する前の接点」をつくる場**

－校内カフェという日常的な場で、相談を目的とせずに立ち寄ることができる。
－小さな変化・SOSを早期発見できる。

４．学校外の地域や社会につなぐ**ソーシャルワークの起点となる場**

－NPOや地域の人が関わることで、自ら相談窓口に行かない生徒を必要な支援（社会資源）につなぐことができる。

「校内居場所カフェ」の課題

1．**学校内の居場所カフェに使用する教室（図書室）の定期確保**
－図書室での飲食の制限。校内ルールとの調和。全日制・定時制課程の併置校。

2．**校長・主担当教員の異動による理解の温度差**
－校内居場所カフェ運営に対する教職員間の理解に温度差があり、それまで培ってきた取り組みの継承が困難になるケースも…

3．**運営母体・資金の不安定性**
－年ごとに助成金等の申請により、資金を確保して活動を実施するNPOによる人員配置や資金面における活動継続の不安定さ。



ご清聴
ありがとうございました

認定NPO法人
さいたまユースサポートネット

☎048-819-7561(代表)

✉saitama.yn@gmail.com

